

# 令和4年春期の県内植木市場における取引動向

愛知県植木センターでは昭和61年から県内3植木市場において、主に地元から出荷される緑化樹木を中心に21品目（一般植木、株・玉物、生垣用樹）の取引量を春期（2月～4月）と秋期（10月～11月）に調査しております。また、平成20年からは近年市場でよく見られる10品目を追加して調査しております。今回は本年春期の取引動向の概要について紹介します。

## 1 全体取引量（追加樹種を含まず）〔図－1〕

近年の全体取引量は、平成22年以降減少傾向が続き、平成28・29年は増加に転じたものの、翌年から再び減少傾向となり、今期もやや減少しました。

全体では前年同期（約11.5万本）とほぼ同量の11.5万本弱で、前年同期比は99%となりました。用途別では、一般植木は前年同期比79%、株・玉物は118%、生垣用樹は87%で、株・玉物が持ち直したものの一般植木の減少が多く、生垣用樹も減少しました。

## 2 用途別の取引動向（追加樹種を含まず）〔図－1、図－2〕

### (1) 一般植木（12品目）

一般植木の取引量は約2.7万本で、前年同期（3.4万本）より約0.7万本も減少しました。平成10年代前半は10万本を超える取引量でしたが、20年代後半には4万本程度まで減少し、最近では3万本前後の取引量となっています。

取引量の多い品目は、自然形ではカエデ類が多く、続いてツバキ、キンモクセイ、ヒバ類で昨年から全体的に減少しました。仕立物ではイヌマキ、クロマツ、イヌツゲが増加しましたが、キャラボク、ウバメガシは低調のままで、全体では若干回復しました。

### (2) 株・玉物（5品目）

株・玉物の取引量は約6.5万本で、前年同期（5.5万本）より約1.0万本増加し、下げ止まりの状況かと思われます。

株・玉物は、サツキ、ツツジ類、イヌツゲで約99%を占めますが、いずれも増加しました。

### (3) 生垣用樹（4品目）

生垣用樹の取引量は約2.3万本で、前年同期（2.6万本）より約0.3万本減少しました。平成10年をピークに減少が続き、今期はピーク時の10%まで減少しました。

取引量の多い品目は、サザンカとイヌマキで、生垣用樹の約87%を占めます。今期はイヌマキとマサキが減少し、全体量を押し下げました。

## 3 調査追加樹種（10品目）を含む調査結果〔図－3、表－1〕

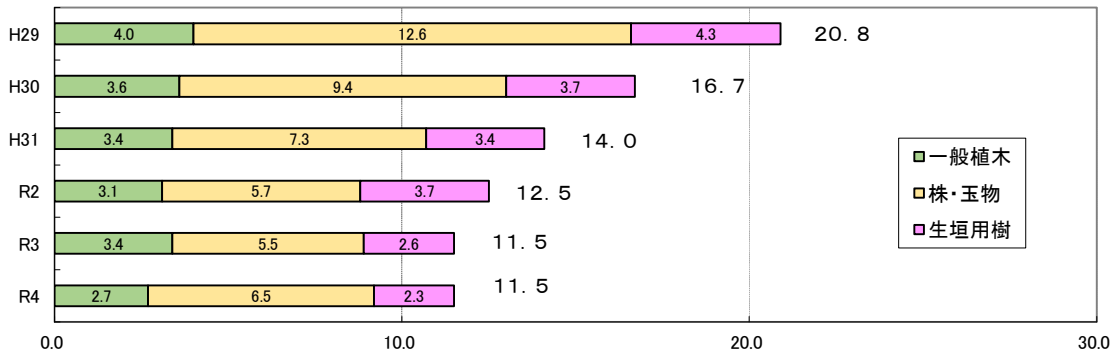
平成20年から、近年市場でよく見られる樹種を、調査対象として追加しました（一般植木ではハナミズキ、シマトネリコなど7種、株・玉物ではドウダンツツジなど3種）。

追加樹種を含めた取引上位10品目では、従来からサツキとツツジ類が上位を占めています。今期は、オタフクナンテン、ドウダンツツジ、イヌツゲが増加して順位を上げ、一方、シマトネリコとカエデ類はやや減少し、順位を落としました。

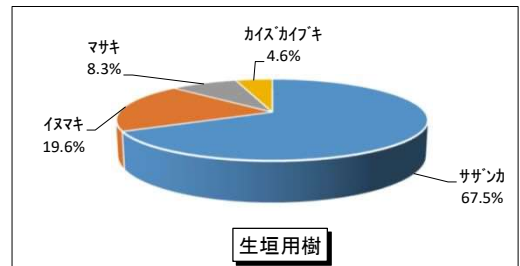
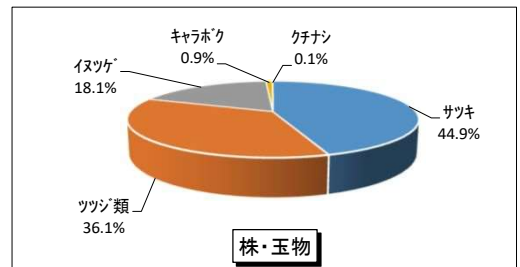
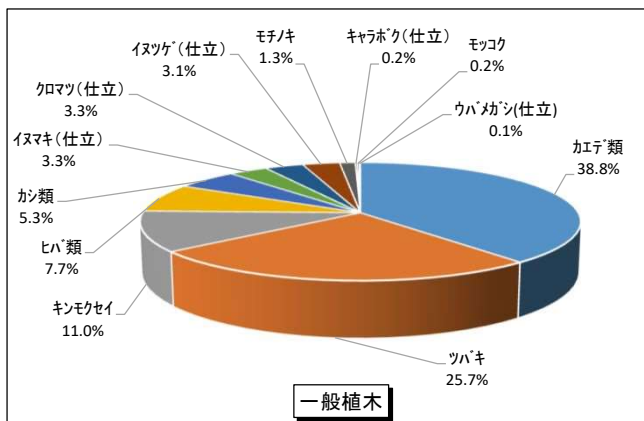
### \*調査市場\*

農事組合法人 井堀植木生産組合（稲沢市井堀江西町）  
矢合植木市場株式会社（稲沢市矢合町）  
福地植木生産組合（西尾市齊藤町）

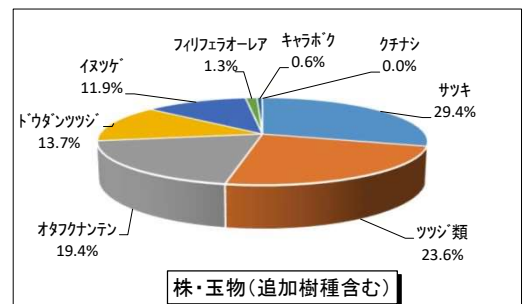
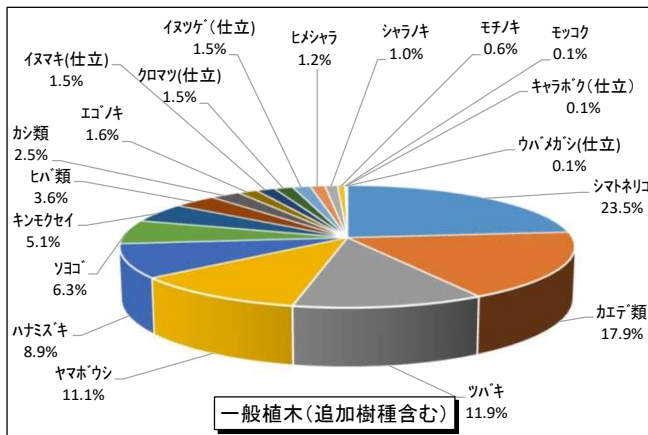
図一 春期取引量の推移（単位:万本）



図二 春期取引量の区分別構成比（%）



図三 春期取引量(追加樹種含む)の区分別構成比（%）



表一 春期取引量上位10品目(追加樹種含む)の動き

順位	令和2年			令和3年			令和4年		
	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比
1	サツキ	株	↘	サツキ	株	...	サツキ	株	...
2	サザンカ	生	↑	ツツジ類	株	↑	ツツジ類	株	↗
3	シマトネリコ	一	↗	シマトネリコ	一	...	オタフクナンテン	株	↗
4	オタフクナンテン	株	↘	オタフクナンテン	株	...	サザンカ	生	...
5	イヌツゲ	株	...	サザンカ	生	↓	シマトネリコ	一	...
6	カエテ類	一	...	カエテ類	一	...	ドウダンツツジ	株	↗
7	ドウダンツツジ	株	...	ドウダンツツジ	株	...	イヌツゲ	株	↗
8	ツツジ類	株	↘	イヌツゲ	株	↘	カエテ類	一	...
9	ハナミズキ	一	...	ハナミズキ	一	...	ツバキ	一	...
10	イヌマキ	生	↘	イヌマキ	生	...	ヤマホウシ	一	...

・前期比単位 ...: ±20%未満 ↗ : +20%以上40%未満 ↘ : -20%以上40%未満  
 ↑ : +40%以上 ↓ : -40%以上 — : データなし

・区分 一: 一般植木 株: 株・玉物 生: 生垣用樹